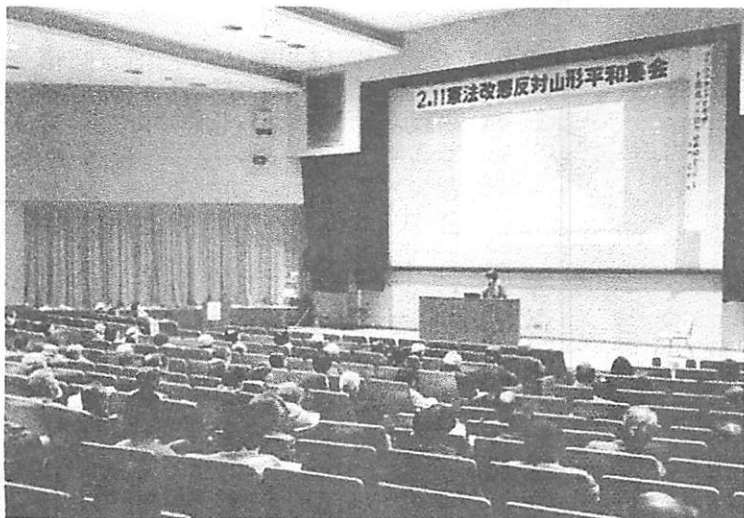


2・11山形平和集会 2月11日山形市
ビッグウイング(3頁参照)

写真「新やまがた」提供



「治安維持法」に命をかけて反対した 山本宣治 没後95周年



今年は、旧労農党の代議士「山宣」こと山本宣治が、治安維持法を死刑法として改悪された緊急勅令事後承認案が国会で可決された1929年3月5日、「七生義団(※)」の黒田保久二から刺殺されて95周年を迎えます。

「新しい戦前」にさせないために、今こそ「治安維持法」に命をかけて反対した山宣の生涯と思想、たたかいから学ぶ意義があると思います。

(※)楠木正成の「七生報国」からとり、「われら国家社会の秩序破壊に対して挑戦す」を謳う右翼団体

山宣は、亡くなる前年の1928年2月、第一回普通選挙(男子のみ)で、労働者、農民たちから後押しされ、非合法の日本共産党から推薦を受け労働農民党(労農党)から立候補(京都2区)、当選します。この選挙で無産政党から8名の代議士が誕生。これに恐れをなした国家権力は、3月15日、日本共産党員や民主団体・知識人・労働者等、治安維持法により1,600人を検挙します(「3・15弾圧事件」)。4月には、労農党、日本労働組合評議会、(2面へ)



「不屈」No. 597付録
山形県版 No. 415
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
山形県本部
〒994-0073
天童市寺津263
瀬野幸男方
TEL. FAX.
023-654-3255

国会請願は5月15日

戦争責任をあいまいにし、裏金づくりに励みながら大軍拡「戦争する国づくり」に暴走する自民党政治を絶対許すわけにはいきません。「再び戦争と暗黒政治を許すな」同盟の出番、4月末まで、1筆でも2筆でも届けてください。

全日本無産青年同盟を解散させ、5月に緊急勅令により治安維持法を最高刑・死刑、目的遂行罪を付与する改悪を行います。しかし、山宣は弾圧犠牲者の救援活動や労農党に代わる新党準備のために全国を駆け巡り、政治的自由獲得労農同盟の代議士として活動します。

山宣は、28年12月から開会された第56回帝国議会を「戦争議会」と名づけ（日本政府はすでに中国侵略を開始していた）、「帝国主義戦争反対」のたたかひの決意を込めて臨みます。彼は生物学者として性教育の実践（産児制限運動）から戦争撲滅・反戦へ、書齋には「戦争撲滅ノ為奮闘セヨ!」「唯生唯戦（ゆいしようゆいせん）」のスローガンを掲げました。



29年2月8日、山宣は予算委員会で「警察予算の用途に関連した発言」を行い、「3・15弾圧事件」での過酷な取り調べや拷問の実態を具体的に徹底して暴露し、政府を厳しく追

及します。

3月2日、治安維持法を死刑法へ改悪する緊急勅令事後承認案が国会に上程されます。山宣は、治安維持法は「資本家や地主の利益を擁護するものであり、これに反対し、労働者、農民の利益のためにたたかっている前衛（日本共産党）の活動を警察と検察権力をもって圧殺しようとする」悪法である等、治安維持法に反対する発言原稿を準備していました。こうした中で3月4日、山宣は大阪で開催された全国農民組合大会に参加。そこで「治安維持法に反対しているのは山宣一人」「だが僕は淋しくない。山宣一人孤塁を守る。背後には多数の同志が」と演説。（この大会に全農山形を代表して秋山直吉が参加、山宣の演説を聞いたと思われる。）

夜行で上京し、翌日5日、死刑法への反対討論を準備して国会に臨みますが、その機会が与えられず可決されました。その夜、西神田尋常小学校での東京市会議員・中村高一の応援演説に臨んだ後、寄宿していた

神田神保町の「光栄館」へ帰ります。

夕食中に訪ねてきた右翼、七生義団の黒田保久二が「斬奸状」（さんかん）悪人を切り殺すの意。それには、「治安維持法に反対し人赤化運動を容易ならしめたる罪」などが書かれていたを差し出し、突然、懐から出した短刀で山宣の頸部を刺す。山宣は暗殺者の襟を離さず、二人は2階から転げ落ちますが、山宣は絶命。享年40歳。山宣が刺殺されてから約一か月後の4月16日、治安維持法により約1000人を検挙する大弾圧「4・16弾圧事件」が起きます。

天皇制政府は、植民地である朝鮮、台湾においても治安維持法による弾圧を強め、「満州事変」・15年の侵略戦争へと突入して行きます。

黒田保久二は山宣暗殺後自首し、殺人罪で懲役十二年が言い渡され、小菅刑務所で服役しますが、何故か六年で「恩赦により出所」（恩赦の理由は不明）。そのあと黒田は満州の大連に渡ります。

本庄豊氏は『テロルの時代』（群青社 2009年）で黒田保久二を操つ

山本宣治の生涯を描いた 映画「武器なき斗い」 (DVD 大東映画 1960年制作)

◇監督：山本薩夫

◇山本宣治：下元勉

この映画は、1960年浅沼稻次郎社会党委員長がテロに倒れた直後に公開されました。

※DVDは、山形県本部にあります。上映を企画する場合、ご連絡下さい。

文中の書籍写真『唯生唯戦—山宣に学ぶ時代の生き方』(109頁)は、一冊500円。山宣を学ぶ最適のテキストです。申し込みは、支部または県本部事務局へ

ていたのは内務官僚、警視庁特高課長・大久保留次郎と推理しています。戦後、公職追放を解除された大久保は、衆議院議員(4期、自民党)となり岸信介内閣では国家公安委員長を務めました。
(瀬野幸男)

2・11山形平和集会

国連憲章と国際人道法を守れの声を広げ、ロシアとイスラエルのジェノサイドをやめさせよう!

山形支部 青木 勝

2月11日、労組や民主団体(国賠同盟も参加)など21団体で構成する実行委員会が主催する「2・11憲法改悪反対山形平和集会」が山形市で開かれ140名が参加しました。

開会のあいさつを行った日本共産党村山地区委員会の阿曾隆山形市議は、「建国記念の日」は天皇を神格化し、その政治を美化した戦前の「紀元節」を復活させたもので、戦前回帰を狙ったものです。今後こうした戦前回帰を許さず、憲法と平和、民主主義を守る運動を広げよう」と訴えました。

実行委員会を代表し東海林仁県教組山形地区支部長は、「イスラエルで今、子どもや女性、民間人を皆殺しにするような攻撃に反対した教師たちが、何度も逮捕、投獄されたというのを聞いて、日本でも

戦前、子ども達が暮らしたの実態を文に書く綴り方運動が弾圧されました。戦争の中では、こうした理不尽な弾圧が繰り返される。こうした歴史を繰り返させないよう、「憲法九条」を持つ国民の一人として、人権を守るこの大切さを学び、行動しよう」と呼びかけました。



ジャーナリストの志葉玲氏(写真上)が「ウクライナとガザ 戦場から語る日本国憲法」と題して講演を行いました。

志葉さんは、2002年春から環境、平和、人権をテーマにフリーランスのジャーナリストとして活動を開始。2003年3月以降は戦場ジャーナリストとして現地に駆け、戦場で起こっていることを映像に撮り、現地の人々の生の声を録音、それを多くの人に視聴してもらう活動をしてきました。

志葉さんは、ウクライナとガザでの住居、難民キャンプ、病院、保育

園、学校などへの無差別爆撃による被災現場やジェノサイド、レイプ、飢餓の広がりなど戦争犯罪の現場を撮った映像と録音した現地の人々の生の声を視聴してもらいながら講演を行いました。参加者は映像を食い入るように見、講演に真剣に聞き入りました。

志葉さんは、講演の中で、ウクライナやガザでの戦争を見たときに、国連憲章や国際人道法に照らしみる事が大事だと語りました。

また、米欧と日本がロシアとイスラエルへの対応がダブルスタンダードになっていることを批判。国連憲章や国際人道法など国際法が守られず、国際秩序が危機に陥っている時だからこそ、日本国憲法、とりわけ憲法前文をしっかり学び、日本が先頭に立って世界に発信しようと呼びかけました。

志葉さんは、最後に気候危機について触れ、「人類が戦争をやっている場合ではない。このままでは地球に住めなくなる。本気になって取り組みを。」と訴えました。

最後に「集会宣言」を採択して閉会しました。

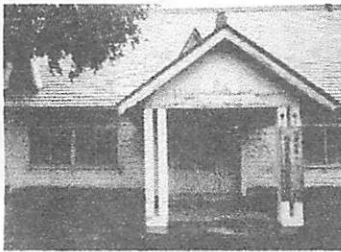
連載

山形における治安維持法下の運動と弾圧の概要(2) 農林省積雪地方農村経済調査所(「雪調」事件)(下)

山形支部 山内 励

この集会で、29人の方から国賠署名に協力頂きました。

小池同様4月6日早朝に東京で連行された柴田仁(ひとし)は、新庄警察署に移送され、2カ月間小池と隔離された。大正元年香川県高松生まれで、東京帝大農学部農業経済学科を卒業後、「雪調」に3年8か月勤務して昭和17年11月に転職し、妻・娘と暮らす32歳の会社員であった。柴田は、『改造』昭和18年3月号に「戦時農業の倫理面と生産面」という論説を寄せている。そこでは、精神力が生産力を決定するかのような倫理はせいぜい第二義的なもので、農業の生産力を高めるためには代表的な稲作でも機械化



農林省積雪地方農村経済調査所「雪の里情報館ホームページ」より

を進める努力が必要であると述べている。また、農家の「適正規模」を策定する目的で、新庄近くの集落の農家に委嘱し、所内で作成したプランの実施と結果を研究していた。

この小池や柴田から7カ月後に雪害調査グループとして検挙された山崎正は、東京生まれで、京都帝大農学部を卒業した32歳の技手であった。

また、山崎と同月に岩手県で連行された石田晋(すすむ)は、明治40年北海道足寄生まれで、北海道帝大農学部農業経済学科を卒業した後、農林省から新設の雪調に赴任して4年近く勤務し、昭和12年6月岩手県庁に異動して岩手県農業会総務部長の地位にあった。石田は、戦争の長期化で物資が年々不足しており、少ない農機具を協同化で効果的に利用することを述べていた。

『特高月報』の「檢舉状況」に記された檢舉理由は次のようなものであった。小池と柴田については、調査所刊行の各種出版物に東北地方における農村経済に関する各種論文を発表し、講座派の流れをくむマルクス主義的方向に基づく具体的理論分析の容疑が極めて濃厚として注目していたところ、出版物を農政関係方面、系統農会等に配布し一般の啓蒙を計り、さらに山形県下数村に文献資料を配布し、しばしば座談会を開催して意識的な指導をし、左翼的人物と連絡協議した事実等が判明して、治安維持法違反の容疑が濃厚となった。山崎の詳細記事はないが、石田については、調査所勤務時代に調査所内左翼グループに参加した事実があり嚴重内偵していたところ、昨年12月に県農業会第一回支部業務課長会議の席上、共産主義的見地より同県農業の半封建的性質を指摘して参加者を啓蒙し、さらに本年1月に封建遺制清掃化の方向で農業経営の協同化こそ県農業会の指導方針であるとする「運営方針書」を各郡支部農

業会に指令するなど、引き続き同県農業会内に左翼グループを形成しつつあるとの新容疑が濃厚となった。

檢舉後、小池は昭和18年4月16日に砂田周蔵の取り調べを受け、警察の調査作りの後、昭和19年1月27日から3月1日まで検事調べがなされ、予審・公判で執行猶予つき有罪判決となり、同年5月27日に釈放された。柴田は、昭和18年6月に新庄から山形暑に移送されて砂田の取り調べを受け、未決監に移送された後、公判で執行猶予つき有罪判決となり、昭和19年9月に釈放された。一方、山崎の経緯はわからないが、石田は、昭和20年8月15日になってようやく釈放された。

3 「雪調」事件関係者のその後

小池保は、東京で終戦を迎え、昭和21年に岩手県農業会にはいり、昭和23年に岩手県農業協同組合課課長となり、岩手県農地・農政課長、農林・農務部長をつとめた後、昭和41年に県庁を退職した。その後、昭和43年には革新市政である岐阜県中津川市の助役になって2期つとめ、昭

和51年には同市市長になって3期つとめた後、平成5年1月に83歳で死去した。

柴田仁は、軍需会社就職している時に召集されて朝鮮に行き、戦災で両親を失い、妻・娘は東京空襲に遭い岐阜に疎開した。復員後、総司令部天然資源局に5年勤務し、昭和26年に農林省統計調査部に勤務して定年退職し、昭和64年8月に76歳で死去した。昭和63年には、柴田の「つかの間の明るさ」が岩波新書『私の昭和史』に論文入選している。

石田晋は、札幌に帰郷していたが、岩手県知事からの懇請や、岩手県特高課で石田を檢舉した千葉完からの謝罪を受けて、岩手県に戻り、農林省仙台農地事務局の部長や岩手県農地・経済・農林各部長をつとめ、昭和37年から昭和44年までは岩手県農協中央会長となり、平成5年3月に86歳で死去した。石田の事件について、後に千葉は、「内務省から、石田氏に関する資料が直接送られてきて、檢舉せざるをえなかった。あの事件を担当しているうちに、世の中

が嫌になった」と回想している。

一方、山形県特高課で手腕を振るつた砂田周蔵警部は、内務省警保局保安課勤務となつて昭和19年2月に赴任したが、戦後は処分を受けることもなく、昭和21年に調査局勤務となり、内事局事務官や国警本部警視となり、昭和39年に警察庁所管警察大学校現任科部長となり、昭和41年8月に警備教養部長で大学校を退職し、内閣調査室情報収集機関の民間委託調査団体に就職して、昭和44年8月に62歳で死去している。昭和31年3月、永年勤続優良警察官として長官表彰された警察庁警備課課長補佐砂田周蔵警視正の『朝日新聞』山形版記事には、「一貫して中央の警備警察で左翼、労働関係を担当、都内きつての情報通として重きをなしている。」と記されている。

〈参考文献〉高島真『特高sの時代』

〈山形県社会運動史のプロファイル〉

1999年、新風舎



婦人解放に一生を捧げた 竹内トモエ

田村寛三著『酒田ききあるき』

(1979年8月発行)から



竹内トモエ

昭和の初期に、資本主義社会の矛盾が激化、不況と物価高、治安維持法による言論や思想の束縛、共産党弾圧などの社会不安が続出し、失業者が街に溢れた時代でした。

こうしたなかで、昭和4年、酒田でも社会科学研究会が、マルクスの理論思想を勉強した帰郷大学生、教師、酒中や女学校卒業の同志らで結成されたのです。彼らの多くは、素

封家や士族の次三男で、週三回会合し、論文や研究発表、討論を通じて政治や社会の革命理論を身につけていきました。会員は40人、女性10人いました。そのなかで、いつも鋭い意見を持ち、きわだって熱心な若い娘がいました。彼女こそ、その後夫丑松と共に過酷な迫害にたえ、婦

人の地位向上と大衆のため、不屈の運動を続けた竹内トモエでした。

トモエは明治41年酒田鍛冶町(今の一番町)の武長呉服店の娘として何不自由なく生まれ育ち、学芸とも優秀で、やがて女学校に入学、女学校時代からトルストイ、ゴウリキー、イプセンなどを耽読する文学少女でした。

当時は平塚雷鳥の婦人解放運動や、青鞥社(平塚等女流文学者の新思想、婦人運動の機関誌を発行した)の活動が盛んで、トモエは社の機関誌などを通じて、階級運動こそ真の婦人解放につながるものと、眼を開くことになったといえます。

昭和5年、酒田では歴史に残る市民運動に発展した水道問題が起きました。この事件は、町の水道工事のさい、景気の変動で生じた工事の余剰金八万円を、町当局は町長に三千万円から、以下は新聞記者まで桐火鉢を贈るなど大盤振舞をしたということです。今では八万円といっても想像出来ませんが、当時としては大変な巨費だったのです。

これを知った酒田の大衆政治家、竹内丑松（元共産党市議）や池田正之輔氏（元国務大臣）等は「許せぬ不正行為だ、余剰金は町民の水道敷設補助として交付せよ」をスローガンに激しい町民運動を展開したのです。この時の三回の町民大会には、全町民といつてよい3千人を超える群衆が集まり、町長や助役宅へ押しかけたといえます。これには前記の社研や全農西平田等の青年らが中心となり、トモエはこの先頭で活躍しました。彼女は生前、当時群衆が夜半までスクラムを組んで行く光景を見て、革命前夜の興奮を覚えたと話しています。また彼女の姿に警備の警官隊が「東京のマネして女まできた」と驚いた時代だったのです。

その後の彼女は、階級運動の兵站部（へいたんぶ）といわれた無産者消費者組合運動に従事し生活物資の供給を通じて資本主義社会のカラクリを暴露したり、大衆運動を説き回ったり、モップル（国際革命運動犠牲者救援会）の指導者として全国を歩き回るなど、その献身には目を見張るばかりでした。また、酒田では演劇グループ「デデポポ」を結成、夜会式などで風刺劇を上演し警官の臨検をうけました。エピソードには、鳥海山で社会劇をやる”というウワサに警官が大挙山頂に登った話も伝えられています。昭和7年、県下初めての余目地区農民メーデーでは武装警官が「女ツ！ 待てー！」と叫んで追いかけて回した話も当時は笑えないことの一つでした。竹内丑松氏との結婚も、夫と共に民衆のためにを胸に、貧困と弾圧のなかで地味な運動を続け、常に郷土にあつて婦人の地位と生活の向上のためのあけくれでした。

一九三一（昭六）年余目農民メーデー

（竹内丑松著）

『夜明けをめざして』218頁より）

昭和46年5月28日没。菩提寺は酒田の海晏寺です。（現在埼玉県に移設（編集者））

※竹内トモエ（1908—1971）

29年酒田市社会科学研究会結成に参加。30年酒田市無産者消費者組合の常任活動家となる。32年治安維持法容疑で検挙される。以後、戦前度々検挙される。45年日本共産党に入党。居住細胞所属。62年新日本婦人の会に参加。71年5月28日病死。享年63歳。遺族 竹内丑松（夫）

酒田市新井田町7-8（日本国民救済会山形県本部「山形県解放のいしずえ」1989.1.1より）

※前記「竹内トモエ」の中に、余目メーデー開催年を昭和七年と記しているが六年の誤りである（編集者）。このメーデーは、満州事変前夜のメーデーであつた。一九三一年五月一日は、幸運にも天気恵まれ五月晴れの好天気だった。組合の各支部や酒田の青年たち

も続々と会場に集まり、予定通り百五、六十名の員数に達した。ところがこのメーデーを取り締まるために余目の警察は管内の署員を総動員して要所に配置し、さらには消防組合員をも総動員してポンプ小屋などに配置した。その数はメーデーに参加

したわれわれの員数よりはるかに多く、まるで警察の示威運動のような観すらあった。

会場には「侵略戦争反対、労働者農民の解放運動弾圧反対、小作料の大幅引き下げ、土地を農民へ、労働者農民の政府をつくろう」などのスローガンをかけ、弁士はこのスローガンにそって演壇で熱弁をふるったが、出る弁士はみな演壇のそばで頑張っている臨監(警察官)に弁士中止を食い、言論はほとんど封殺された。

これに対し会場の方ほうから警官横暴、言論の弾圧やめる、などの抗議や怒号がおこり、会場内は騒然となった。こんな状態で室内集会(映画館)は予定よりずいぶん早くおわり街頭行進に移った。

メーデー行進は会場の映画館前から余目町の西はずれまでコースときめていたが、行進の先頭になつていた私達の周囲には、余目警察の特高をはじめ警官が垣をつくるようにとりかこみ、われわれにすこしでも逸脱した行動でもあればすぐひつくる構えで目を光らしていた。余目町

の人々はこの物々しい警戒のなかを行進するメーデーを半ば恐怖しながら物めずらしそうに眺めていた。

メーデー行進が余目警察の近くにさしかかったとき、私は四、五人の警官に両腕や襟首を取られて隊列から引きはなされ、そのまま警察署に引きずりこまれて有無をいわさずに監房に放りこまれてしまった。結束されたのは私一人のようだったが、私はなんのための結束なのかわからなかった。

国賠同盟「春のつどい」

—3・15、4・16弾圧記念講演会

◇日時 4月13日(土) 午後1:30~

◇場所 山形市男女共同参画センター
「ファール」5F 視聴覚室
(山形市城西2-2-22)

◇演題 「先人の闘いを引き継いで」
山形の民主運動を切り拓いた
山高社研の闘いを中心に

◇講師：佐藤光康さん
(西川町町議会議員、歴教協会員)

主催 国賠同盟山形県本部

2024年 2月の支部ごとの到達点 2024/2/29現在

支部		山形	鶴岡田川	酒田	天童	米沢	上山	西村山	北村山	東置賜	西置賜	新庄	県本部計
個人署名	目標	2200	1200	960	500	1000	200	500	500	650	400	—	8500
	到達	539	624	599	200	167	160	139	142	130	120	5	2825
団体署名	目標	50	60	50	20	30	5	50	20	50	10	—	350
	到達	4	48	22	5	10	1	23	8	4	3	0	128
会 員	目標	90	60	60	25	25	10	40	20	34	21	—	400
	到達	73	49	41	19	25	8	34	15	30	15	6	315